東出雲公民館だより
kiramachi
2022年
3月号
No.10

特集「ふるさと未来学習」
学習の概要・感想 …… P2－3
上定市長が語る …… P4－5
－未来を担う子どもたちへ－
東出雲複合施設建設について …… P6－7
公民館・図書館からお知らせ …… P8

「意東海岸から眺める大山と白鳥」

**歴史講座
参加者募集！**

崎田遺跡・種前遺跡の発掘調査から見えてきたこと

　昨年、市道揖屋馬潟線整備事業に伴う発掘調査で古墳時代から中・近世にかけての集落跡が発見されました。この調査成果の講演と、出土した遺物の展示を行う歴史講座を開催します。
　発掘調査から見えてきた古の郷土に想いを馳せてみませんか。

日時　3月26日（土）10:00 ～ 11:30
会場　東出雲公民館大ホール
講師　徳永隆 氏（松江市埋蔵文化財調査室 主任）
参加申込　3月24日（木）までに東出雲公民館へ申し込んでください。

≪崎田遺跡≫
　切り立った尾根上で古墳時代の竪穴建物跡がポツンと一軒発見されました。立地的に珍しく煮炊きする炉跡も見つかっていないことから住居以外の特別な機能の建物だった可能性も考えられます。「井」の文字が書かれた墨書土器がみつかっており識字者の存在が窺えます。この頃には古代山陰道が近くを通っており、交通の要衝に発展した集落の可能性があります。

≪種前遺跡≫
　山裾の低地に広がる遺跡で、海抜4メートル程度にも関わらず古墳時代の竪穴建物跡が発見されました。市内でこれだけ低い位置で確認された事例はなく、中海に近い点から漁業や海運を生業とする集落跡の可能性が高いと考えられます。この他、中世末から近世の掘立建物跡も検出されています。

特集 ふるさと未来学習

昨年の10月29日、上定松江市長を講師に迎えた「ふるさと未来学習」が東出雲中学校で行われました。

上定市長は、子どもの頃から市長になるまでの経験について、地域への想いを込めて、当時の写真も披露しながら講演されました。また、3年生の生徒たちは事前学習を経て市長に聞きたいことを考え、5人が代表で質問しました。学習後の感想から、上定市長の言葉が同じ景色を見て育った同郷の先輩として、生徒たちの心に強く響いたことがうかがえ、素晴らしい学習の時間だったと感じました。

そこで、東出雲公民館企画PR部では「ふるさと未来学習」を特集すると共に、1月27日に上定市長へのインタビューを行い、未来を担う子どもたちへの想いをお聞きしました。

5人の中学生の質問に、上定市長が丁寧に答えてくださいました

Q 市長さんはシンガポールなど、他のさまざまな地域を見てきて、なお松江に戻ろうと思ったのはなぜですか。

A 松江に住んでいるときは「ここには何もない」と思っていましたが、外に出てみて、松江にしかないものがたくさんあると気付き、いつか故郷のために汗をかきたいと考えるようになりました。いろいろな場所で経験したことを、松江のために生かしたいと思っています。

Q 38人学級にした理由はなぜですか。少ないほうがよかったです。

A 一クラスの人数は国の基準で決められていますが、島根県は独自に少人数学級制度を設けていました。しかし、県の制度が廃止されて、国の基準に戻っています。教育はとても大切なので、今後考えていきたいと思っています。

Q 自分の考えを実行するときに、大切にしていることは何ですか。

A 俯瞰（ふかん）してみることです。目の前の事象だけでなく過去や将来も含め、広い視野をもって判断するように心がけています。

Q 島根（松江）の観光大使になりたいです。どういう人になってもらいたいですか。

松江のよいと思うところを話してみてもらえますか。

学校から帰ると地域の人が声をかけてくれます。人の温かさがよいところです。

A 素晴らしいです。そのように地域のよいところを発信していってください。いつか観光大使になれると思いますよ。

Q 将来なりたいものがないし、将来の自分がどうなっているか想像もできなくて不安です。大丈夫なのでしょうか。

A 将来のことを不安に思うのは当たり前のことで、不安になる必要はありません。皆さんの可能性は無限大です。焦らなくても大丈夫です。

学習後の感想から

今回のふるさと未来学習は、東出雲中学校の生徒に多くの気づきや勇気を与えました。
学習後の感想からも、上定市長の言葉がストレートに生徒たちの心に響いたことがうかがえました。生徒の感想の中から抜粋して掲載します。

今はまだ田舎でつまらないなーと思ってしまうことが多いけど、将来県外に出た時、自分の出身地が自慢できるようにたくさん良さを見つけられるようになりたいです。

私は将来の夢がなかなか見つけることができなくて、不安がありましたが、上定さんのお話を聞き、まだ焦らなくても大丈夫なんだと思い、気持ちが楽になりました。

最近は田舎から都会へ行く人が多く、過疎とかの問題にもなっていて、「帰ってきたくなるような所」を作ることが目標だけど、それは市長さんや松江の偉い方だけの目標ではなくて、松江市民全員で取り組むべき課題だと分かりました。

お話を聞いて、地元にいて人のためになる仕事がとてもかっこいいと思いました。私はあせって早く将来について考えなければと思っていましたが、これからの学校生活などで、焦らず決めようと思います。

世界中を訪れて、色々な文化に触れてみたからこそ松江の魅力に気づいたという言葉がとても心に残りました。

「君たちは無限の可能性に満ち溢れている」という言葉が僕はとても心に残っています。今まで自分は何かするときや、空手の練習、試合のときに「これはできない」と決めつけていました。ですが、この言葉を聞いてまずは挑戦してみよう、可能性はゼロじゃないと思えるようになり、考え方が変わりました。

何事にも前向きで、その時に体験したことをどう改善して次に生かすのか、ということがどれだけ大切かが分かりました。

ほっとハート東出雲学園小中一貫教育地域推進協議会

主催者の想いと感想

森本 秀歳 会長

ほっとハート東出雲学園小中一貫教育地域推進協議会では、地元に愛着を持ち、地域に貢献できる人材を育てていくために、ふるさと教育やキャリア教育の推進に取り組んでいます。これまでに「キャリア教育フォーラム」を６回開催し、保護者の皆さんはもちろん地域の方々、事業所の方々にも多く参加いただき職場体験学習や社会体験学習に対する理解を深めていただきました。
今年度は、地元愛を持った職業人から、将来を担う子どもたちに向けて語ってもらうという内容の「ふるさと未来学習」を立案し、この企画にもっともふさわしい方として上定昭仁松江市長に講演のお願いをしました。
上定市長は、大学進学で地元を離れ、卒業後は銀行員として全国各地でご活躍、また海外での勤務経験もあり、これまでの経験からふるさとのために役に立ちたいとの思いから昨年の春に夢を実現されたところです。
今回は市長という立場よりも、夢の実現のためにチャレンジしてきた先輩という立場で生徒たちへ話していただきました。

大森 一生 委員

松江市を良くしていくための思いや、ふるさとに対する思いの変化等を、上定松江市長ご自身の経験から具体的で分かりやすくお話しされ、将来を担う中学生にとっては一つの模範となり、非常に参考になったのではないかと思います。
中学生の皆さんの多くが将来に対する不安を感じていることには驚きを感じましたが、そういった不安の反面、様々な選択肢があり、沢山の可能性があると言われた市長の言葉は、非常に勇気づけられる言葉であったと思います。
自分自身の将来像を描くための貴重な経験になったことと思いますし、改めてふるさとへ対する思いを巡らせてみる良い機会になったことと思います。

村山 清春 委員

同窓の先輩の話と代表者質問＆市長回答を聴いて、中学生は、色んな思いの中でも、今の自分を肯定的に受け止め、安堵と希望が持てたことと思います。
私は、「今の生活を大切にし、色んな事に本気で取り組み、経験を積み重ねることで、自分流の課題解決方法が練られ、自分の役割も感じ取れてくる」と受け取りました。「其々の感性や社会での役割は、生きている人の数だけ存在するので、常に変わりゆく標準や比較基準を追い求める必要はなく、自分の特性・役割を見い出すよう、正面から炎のごとく行動（思考）することが大切」と感じました。
ALL IS WELL。世人の評価・比較に臆することなく、その時々、描いたことにチャレンジし続けることが、生かされている自分も大切にしていくことだと思っています。

上定市長が語る
－未来を担う子どもたちへ－

Q：ふるさと未来学習の中学生の感想をご覧になってどう思いましたか。

市長　これまで講演の機会は数多くいただきましたが、実は中学生は東出雲中が初めてでした。私と同じ景色を見て育った、後輩の皆さんとお話しできたのは嬉しいことでした。

皆さんから、「地元の良さに気づかされた」という感想のほかに、「良い所というのは分かるけど、客観性を高めるために外の世界も知りたい」という意見もいただきました。私がお伝えしたかったのは、**近視眼的にならず物事を俯瞰（ふかん）的に見ることが大切**、ということだったので、それを皆さんが受け取ってくれていることに喜んでいます。

また、たくさんの皆さんから、「不安があっていいんだと思った」との感想をいただきました。私も中学生の時は同じだったと思いますが、それぞれ悩みを持ちながら、高校進学という人生で初めての岐路に差しかかっていることを感じました。**悩んでいることは普通のことで、悩むことによって次の成長した自分がある**、と考えて欲しいですね。

Q：東出雲町も含めた松江の魅力、誇りに思えることは何ですか。

市長　たくさんありますが、その中で一つ挙げるとすれば「人」だと思います。**唯一無二の「自然」がありのままで引き継がれ、ここにしかない「伝統文化」が育まれた理由は、「人」にある**と考えています。昨年４月に、島根町で火災が起こった時に、地域の皆さんが声を掛け合うことで一人の犠牲者も出なかったことに表わされていますが、個々人が思いやりを持ち、相手の立場に立って、自分だけで生きているんじゃないという助け合いの精神が生活の中に根付き、実感できるのは、とても貴重なことです。

東京も空襲の焼け野原から復興する時には、「みんなで頑張ろう」と声を掛け合っていたのだと思います。しかし、今は便利になって自動化されて、人との関係が希薄になって、地域のつながりも損なわれてきています。そうした中で、松江の持つ地域性はかけがえのないもので、防災力にも直結する強みです。一方で、それを一度失ってしまうと復活させることは難しいので、私たちが次の世代、孫の世代に受け継いでいかなければなりません。今まではみんな自然にそうした気持ちを持てたのでしょうが、**これからは強みであり誇れることなんだと自覚したうえで、育んでいくことが必要**だと思います。

Q：子どもたちの未来にとって、本当に今一番大切に考えないといけないことってどういうことだと思いますか。

市長　**自分に限界を設けないことです。**中学生の皆さんは、今から何にでもなれます。にもかかわらず、いつの間にか「現実は厳しい」という妄想に囚われてしまい、自分の中でこれ以上はできないと限界を設定してしまっているところがあると思います。もちろん、成長に伴って、どこかで必ず地に足を着けて考えなくてはならないのですが、将来有望な若い皆さんは自らの可能性を信じるべきです。「なりたい」と本気で願えば、プロ野球選手にだってユーチューバーにだって本当になれますし、そうした意識を持つことが夢を叶える第一歩だと思います。

私が市長として目指しているのは、「あらゆる夢が松江で果たせる」ということです。「夢を実現できる松江」をキャッチフレーズにしています。正直に言うと、私は子どもの頃、自分がやりたいことは松江ではできないだろうと思っていました。都会への憧れもあって松江を離れましたが、インターネットや SNS が普及した今、都会でしかできないことの方が少なくなっています。むしろ、新型コロナウイルス感染症の影響で、満員電車もなくて感染リスクの低い地方の良さが見直されて、田舎の可能性がどんどん広がっています。そして逆に、松江にしかないものがたくさんあります。お茶、和菓子、干し柿、黄泉比良坂などなど。そうしたものに磨きをかけて、「足し算」「掛け算」していけばいろいろな可能性が出てきます。それを子どもたちが持っている夢と結び付けて、『私がやりたいことは松江でできる』『松江で実現できない夢なんてない』と感じてもらえるよう、徐々に取組みを始めています。『できるかも』という期待感もとても重要で、市長が前向きに面白いことをやっているから、自分も何かできるのではないかと思ってもらえると、今までは本当にできるか半信半疑だった夢が実現してしまうんですね。そして、それを実現する主役が今の子どもたちです。**行政として、新しい仕組みや、みんなが生き生きと活躍するための土壌をつくっていくのに合わせて、若い皆さんには、『私はこれにチャレンジしたい』と前向きに目標を立てて歩みを進めて欲しい**と思います。

Q：松江の将来を担う子どもたちにメッセージをお願いします。

市長　東出雲は、日本の自然、歴史、伝統文化が深く感じられる「ザ・ジャパン」がある場所だと思います。私たちがここにいることは偶然ではなく必然で、私たちが育った土地に先祖がいて、豊かな土地と生活を築いてくれて、伝統文化を受け継いでくれたものです。良いものがたくさんあることに関心を持つことが、生まれ育ててもらったことへの感謝に繋がり、その感謝がいつか「恩返ししたい」という気持ちになるのではないでしょうか。**もし一度松江を離れても、故郷への関心を忘れずにいて欲しい**ですね。それと同時に、周りが見えて初めて、「灯台下暗し」だった自分のことがわかるのも事実です。**外に目を向けることも大切にして、バランス感覚を持って、自分に限界を課すことなくチャレンジして欲しい**と思います。

市長とインタビュアー（企画PR部佐々木部長、本多館長）

令和4年度から建設が始まる東出雲複合施設

屋根や壁はどんな色がいいかな？

令和4年度から、東出雲の公民館、支所、図書館、子育て支援センター、地域包括支援センターが一緒に入る複合施設の建設が始まります。場所は、JR揖屋駅の南側にある揖屋ふれあい広場の中で、現在の保健相談センターと増築部分を合わせて約1,675平方メートルの建物面積となる予定です。

赤ちゃんからご高齢の方まで、地域の皆さんが集まる拠点施設として誰もが行きたくなるような場所にしたいものですね。

そこで、東出雲複合施設建設委員会の提案で、これからたくさん利用する機会のある東出雲中学校の生徒の皆さんに屋根と壁の色を下の4つの候補から選んでもらうこととなりました。地域の皆さんの人気投票フォームも設けていますので、下のURLまたはQRコードから投票してみてください。

https://higashiizumo-kouminkan.net/enq-common

右のQRコードからもご覧になれます。▶

A 屋根／壁「濃いグレー」

B 屋根／壁「明るいグレー」

C 屋根「濃いグレー」／壁「ベージュ」

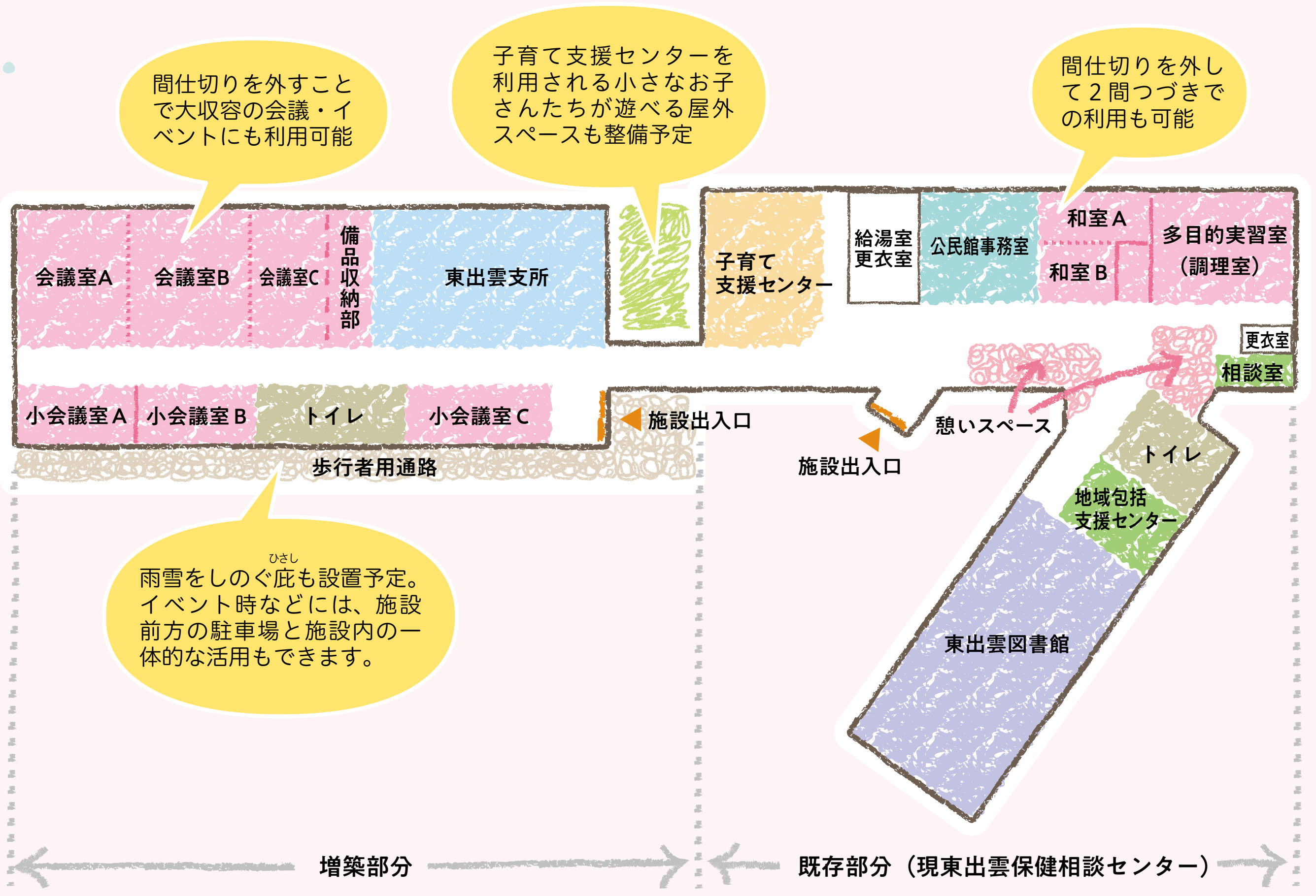
D 屋根「朱色」／壁「ベージュ」

愛称も募集♪

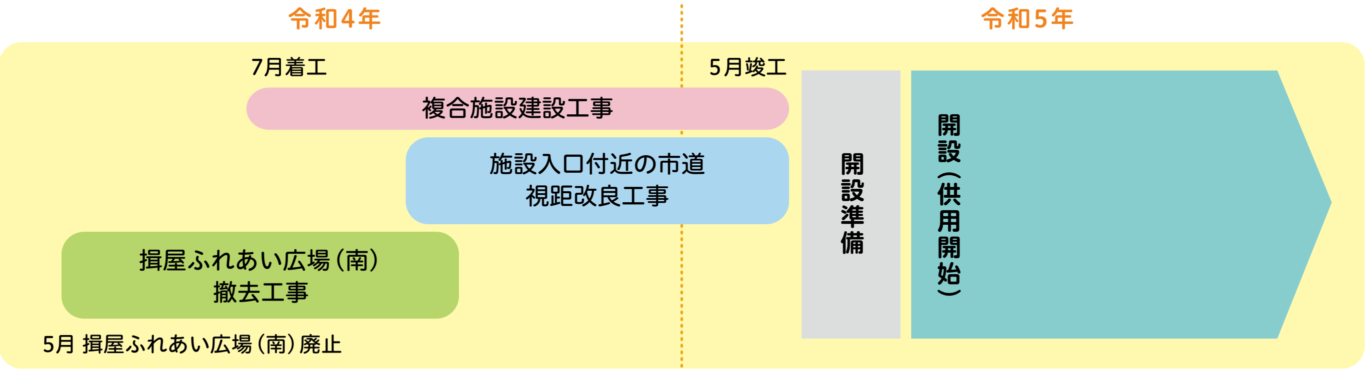
複合施設の愛称も募集する予定です。
詳しくは４月以降にお知らせしますので
お楽しみに！

施設内レイアウト

地域の皆さんの意見・要望を踏まえて検討された複合施設内レイアウト（案）のイメージ



建設・整備スケジュール

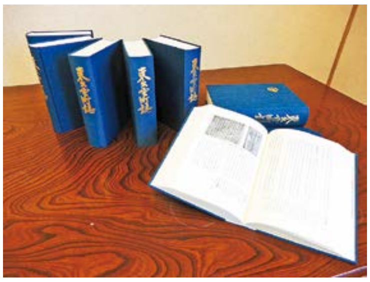


揖屋ふれあい広場（南）について

これまで『駅広（えきこー）』として親しまれてきた揖屋ふれあい広場（南）ですが、複合施設建設工事のため今年５月から利用できなくなります。松江市では、現在の東出雲公民館辺りに代わりの広場を整備する計画です。工事期間中はご不便お掛けしますが、ご理解いただきますようお願いします。

4月からいよいよスタート！

「町誌から東出雲の歴史を学ぶ」講座



東出雲町誌（昭和５３年発行）を手引き書として、その後の発見に基づく新たな解釈も交えながら町の通史を学ぶ講座を開始します。原始古代、中世、近世、近現代と時代ごとに専門の講師から指導いただき、現地研修も盛り込んで楽しく学び合う連続講座です。

日程などの詳細は４月号でお知らせしますが、関心のある方はお早めに公民館までご連絡ください。なお、ご希望の方には事前に町誌をお渡しします。

・講師は次の方々を予定しています
　三宅博士氏、花谷浩氏、山根正明氏、浅沼政誌氏、吉儀和平氏

地区社協

法律相談

弁護士による無料法律相談を毎月第１水曜日に行っています。
ご希望の方は前日午後３時までに予約ください。

日時　3月2日（水）、4月6日（水）
　　　10：00〜12：00
場所　東出雲公民館 第２会議室
予約　東出雲公民館まで

行政相談

行政相談員による相談を毎月第３水曜日に行っています。

日時　3月16日（水）
　　　14：00〜16：00
場所　東出雲公民館 第２会議室
※予約は必要ありません。
※新型コロナの感染状況により中止となる場合があります。

東出雲図書館からお知らせ

松江市立中央図書館の改修に伴い、工事期間中は東出雲図書館の休館日等が下記のとおり変更となります。

ご不便をおかけしますが、よろしくお願いします。

東出雲図書館	令和4年 3月31日まで	**4月1日〜工事終了まで （令和５年秋ごろ）**
開館時間	9：00〜18：00	
休　館　日	毎週火曜日 毎月最終金曜日	**毎週水曜日** 毎月最終金曜日
貸出冊数	15 冊	10 冊
貸出期間	3 週間	2 週間
予約可能数	5 冊	10 冊

コミュニティバスのダイヤ改正について

4月から、コミバスのダイヤが変わります。

改正後の時刻表は東出雲公民館に置いてあります。

日常の移動にコミバスを利用しましょう！

東出雲地区コミュニティバス利用促進協議会

東出雲地域の主な行事（3月）

月　日	内　容	主　催
3/ 2（水）	法律相談	地区社協
3/ 3（木）	配食サービス	地区社協
3/ 8（火）	離乳食個別相談会	地区社協
	あいさつ運動	公民館　※意東地区のみ
3/ 9（水）	卒業式	東出雲中学校
	あいさつ運動	公民館
3/13（日）	防災訓練（市の向地区）	公民館
3/16（水）	行政相談	島根行政監視行政相談センター
3/17（木）	配食サービス	地区社協
3/18（金）	卒業式	出雲郷・揖屋・意東小学校
3/26（土）	歴史講座	公民館

※新型コロナの感染状況により中止となる場合があります。

松江市東出雲公民館　〒699-0101 松江市東出雲町揖屋 1139-2
TEL52-3297 ／ FAX52-9516　E-mail：hizumok@mable.ne.jp